

学校関係者評価委員会資料

今年度重点目標と学校評価結果の関係

●自尊感情を高め、意欲を育てる

進路目標明確化の指導 《生徒》82% (+9), 《保護者》77% (-5), 《職員》95% (+7)

将来へ向けた適切な進路研究 《生徒》81% (+8)

活発な部活動 《生徒》91% (+6), 《保護者》93% (+12)

活発な生徒会活動 《生徒》72% (+6)

国際理解教育を通じた異文化理解 《生徒》59% (-16), 《保護者》66% (-14)

●考える力を育てる

学ぶ意欲を引き出す授業 《生徒》70% (+4), 《保護者》78% (-1), 95% (+2)

シラバス(学習の手引き)の活用 《生徒》63% (+4), 《保護者》78% (-2), 《職員》86% (+9)

読書に親しむ意識を高めている 《生徒》86% (+11)

●地域・保護者との協働

地域や伝統に根ざした特色ある学校づくり 《生徒》69% (+7), 《職員》93% (+5)

●安全・安心な環境づくり

メール配信は役に立っている 《生徒》75% (+10), 《保護者》92% (+5)

いじめの早期発見に取り組んでいる 《生徒》75% (+7)

教員やカウンセラーの相談等の対応 《生徒》84% (+10)

生徒のケガや病気への適切な対応 《生徒》83% (+5), 《保護者》90% (+5)

施設や設備が整備されている 《生徒》67% (-7)

◆学校生活は充実している 《生徒》90% (+6), 《保護者》94% (+3)

※前年度比5ポイント以上変動のあったものを中心にまとめたもの(カッコ内±は前年度比)

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

【総務関係：保護者】

- Q1 学校として地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる
 Q2 お子様の学校生活は充実している
 Q3 保護者に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている
 Q4 保護者に対して、学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている
 Q5 本校のメール配信は役に立っている
 Q6 PTA活動は活発に行われている

【総務関係：生徒】

- Q1 学校として、地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる
 Q2 自分にとって、学校生活は充実している
 Q3 生徒に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている
 Q4 保護者に対して、学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている
 Q5 本校のメール配信は役に立っている

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
総務関係	①特色ある学校づくりについて 保82 生69 職93	A	地域と協働できる生徒の育成を目標に、文科事業などの様々な試みを行ってきた成果として、肯定的な評価の割合が前年比で増加傾向にある。さらに、地域とのつながりを深め、ニーズを見出し、協働的に学校の魅力化をすすめる態勢をつくりあげていく。	A	A
	②学校生活の充実について 保94 生90 職100	A	新たなスローガン「自由と創造」のもと、主体的かつ自律的な活動を通じた人材育成に取り組んだ結果、保護者、生徒、教職員ともに肯定的な評価の割合が前年比で大きく増加している。これからも生徒が活躍できる環境づくりを目指していく。	A	A
	③災害・非常時の対応について 保81 生87 職98	A	回答1・2の割合は、保護者[81%]、生徒[87%]、職員[98%]であった。西翔暦・防災体験学習が果たす役割が大きいと考えられる。	A	A
	④学校情報の伝達について 保86 生86 職98	A	回答1・2の割合は、保護者[86%]、生徒[86%]、職員[98%]であった。今後も石巻西高実況中継やHP等で学校の情報を伝え、発信していきたい。	A	A
	⑤メール配信について 保92 生75 職100	A	回答1・2の割合は、保護者[92%]、生徒[75%]、職員[100%]で、生徒の割合が低めではあったが、昨年と比較すると保護者、生徒ともに上がっている。緊急時等正確な情報収集にあたり、なるべく早めにメールが配信できるように努めたい。	A	A
	⑥PTA活動の活発化について 保83 生 職88	A	回答1・2の割合は、保護者[83%]、職員[88%]であった。今後もPTA活動の活性化をはかり、PTA会員の考え、意見を積極的に取り入れ改善していく。	A	A
学校関係評価者による意見	特になし				

【学習指導：保護者】

- Q 7 お子様の学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業が行われている
- Q 8 外部講師の講演や他国の人々との交流などの国際理解教育を通して、異文化理解が深まっている
- Q 9 科目選択や学習の取り組み、評価規定の確認に関して、シラバス（学習の手引き）が活用されている
- Q 10 本校の教育課程や選択科目はお子さんの進路に適している

【学習指導：生徒】

- Q 6 生徒にとって、学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業が行われている
 - Q 7 外部講師の講演や他国の人々との交流などの国際理解教育を通して、異文化理解が深まっている
 - Q 8 科目選択や学習の取り組み、評価規定の確認に関して、シラバス（学習の手引き）が活用されている
 - Q 9 本校の教育課程や選択科目は自分の進路に適している
- A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導関係	①学ぶ意欲を引き出す授業について 保78 生70 職95	A	学校評価アンケートの「学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業が行われている」という項目に関しては、保護者データ(79%→78%)、生徒データ(66%→70%)、職員データ(93%→95%)といずれの項目ともに高水準で推移している。「まなびフォーラム」等全校を上げての取り組みが成果を上げていると考えられる。この数字に慢心せず次年度以降も工夫や改善、研修を続けていきたい。	A	A
	②国際理解教育について 保66 生59 職76	B	「国際理解教育」に関する項目は、生徒データ(75%→59%)、保護者データ(80%→66%)、職員データ(84%→76%)ともに減少している。これは「国際フォーラム」が昨年度で終了し、今年度「国際理解講演会」をまだ実施していないことが背景にあると考えられる。総合学習検討委員会と連携して対応を考えていきたい。	A	A
	③シラバスの活用について 保78 生63 職86	A	「シラバスの活用」に関しては、保護者データ(80%→78%)、生徒データ(59%→63%)、職員データ(77%→86%)といずれの項目とも高い水準で推移している。生徒の数値がまだまだ低いので、科目選択や学習の取り組みにより一層活用されるように研究していきたい。	A	A
	④教育課程・選択科目について 保86 生80 職88	A	「教育課程や選択科目は生徒の進路に適している」に関する項目でも、保護者データ(84%→86%)、生徒データ(76%→80%)、職員データ(95%→88%)といずれの項目とも高い水準で推移している。原稿カリキュラムが残り数年というところなので、このままで進めたい。	A	A
学校関係評価者による意見	特になし				

【進路指導：保護者】

- Q11 お子様の進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている
 Q12 各種進路行事（進路講演会・進路ガイダンス等）を通し、将来へ向けての進路研究が適切に行われている
 Q13 課外講習は、生徒の進路希望実現のために役立っている
 Q14 進路に関する情報提供が適切に行われている

【進路指導：生徒】

- Q10 生徒にとって、進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている
 Q11 課外講習は、生徒の進路希望実現のために役立っている
 Q12 各種進路行事（進路講演会・進路ガイダンス等）を通し、将来へ向けての進路研究が適切に行われている
 Q13 「進路の手引」は、役に立っている
 Q14 進路に関する情報提供が適切に行われている

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
進路指導関係	①進路目標の明確化について 保77 生82 職95	B	昨年度と比較すると、生徒の評価が9%上昇し82%となっており、生徒自身は進路目標を明確にしている実感が持っていると見られる。しかし、一方で保護者の評価が5%下降し77%となった。下記⑤の項目からも、保護者にその状況が伝わりきれていない様子があると思われる。次年度もより自発的な目標を設定できるような機会を設定していきたい。	A	A
	②進路行事・進路研究の適切さについて 保79 生81 職90	B	行事等、予定通り実施することができた。生徒からは80%を超える評価を得ている。次年度も滞りなく実施するのはもちろんのこと、生徒のニーズを的確に把握した行事の設定を行いたい。	A	A
	③課外講習について 保76 生71 職79	B	課外講習は昨年と同等の評価を得ることができたが、学年によっては参加人数の減少が見られた。課外の実施方法について引き続き検討・改善していきたい。	A	A
	④「進路の手引き」の活用について 保 生66 職76	C	今年度、手引きの中に「年間進路シラバス」を作成した。教室掲示等、有効活用している状況も見られた。次年度は、進路活動の度に利用を促すなど働きかけを行っていきたい。	A	A
	⑤進路に関する情報提供の適切さについて 保72 生79 職95	B	進路指導の他にも、各学年教室棟の進路コーナー設置、3学年保護者進路説明会の開催、進路別情報提供、外部ガイダンスの案内等、積極的に行った。保護者の評価「3」が100名を超している状況を受け、次年度は保護者への情報提供をより充実させていきたい。	A	A
学校関係評価者による意見	特になし				

【生徒指導：保護者】

- Q15 生徒に対して、挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている
- Q16 学校として、いじめの問題に対する取組方針が保護者と共有されている
- Q17 学校として、部活動は活発に行われている
- Q18 学校として、生徒会活動は活発に行われている
- Q19 お子様にとって、有意義な学校行事がある
- Q20 交通ルール遵守の指導が行われている
- Q21 生活指導に関する情報（懲戒規程・普通自動車免許取得・各種講演会開催・長期休業中の心得など）が提供されている

【生徒指導：生徒】

- Q15 生徒にとって、挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている
- Q16 学校として、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる
- Q17 学校として、部活動は活発に行われている
- Q18 学校として、生徒会活動は活発に行われている
- Q19 自分にとって、有意義な学校行事がある
- Q20 交通ルール遵守の指導が行われている
- Q21 毎朝の週番集会は機能している

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
生徒指導関係	①基本的な生活習慣の確立について 保84 生81 職93	B	生徒自ら指導できるように意識付けをしたが、その時は理解してもらってると思うが、習慣づけにはなっていない。保護者の理解と協力も必要。	A	A
	②いじめ問題に対する早期発見と取り組みについて 保61 生75 職100	B	生徒、保護者に対して、いじめに対する取り組みを積極的に示していく。	A	A
	③部活動の活発化について 保93 生91 職95	A	部活動活性化（精選）の職員と生徒の話し合いが必要。	A	A
	④生徒会活動の活発化について 保89 生72 職90	B	生徒総会の在り方について、事前指導・準備に力を注ぐとともに、当事者意識を育む。生徒会執行部の存在感を育む取り組みがもっと必要。	A	A
	⑤学校行事について 保86 生81 職95	A	より生徒の主体性を育むようにしていく。	A	A
	⑥交通ルール遵守の指導について 保79 生74 職93	B	交通ルール・マナーについてのアンケートを実施しそれを基に生徒自身に考えさせる機会を作る。	A	A
	⑦生活指導に関する情報提供について 保82 生 職95	A	プリントでは保護者に届いてないのでは。メールや学校のホームページを活用。	A	A
	⑧週番集会について 保 生74 職	A	集会は定着しているが、クラス内での伝え方等の指導も必要。	A	A
学校関係評価者による意見	特になし				

【保健厚生関係：保護者】

- Q22 学校として、生徒のケガや病気に適切に対応し、健康の保持増進を図っている
 Q23 生徒に対して、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている
 Q24 「健康・安全」の意識を高めるために、「保健だより」や各種「検診」などの諸統計を定期的に発行している
 Q25 ゴミの分別処理・ゴミ拾いなどの校舎内外の清掃や環境美化の指導に取り組んでいる

【保健厚生関係：生徒】

- Q22 学校として、生徒のケガや病気に適切に対応し、健康の保持増進を図っている
 Q23 生徒にとって、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている
 Q24 「健康・安全」の意識を高めるために、「保健だより」や各種「検診」などの諸統計を定期的に発行している
 Q25 ゴミの分別処理・ゴミ拾いなどの校舎内外の清掃や環境美化の指導に取り組んでいる
 A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
保健厚生関係	①健康の保持増進について 保90 生83 職98	A	適切に取り組んでおり、今後も継続していきたい。	A	A
	②教育相談について 保82 生84 職100	A	適切に取り組んでおり、関係各者の連携も良好に行われているので、今後も継続していきたい。	A	A
	③「健康・安全」の意識向上のための取り組みについて 保91 生85 職100	A	適切に情報発信ができており、今後もより吟味して情報提供しながら、意識向上に努めていきたい。	A	A
	④環境美化について 保83 生80 職83	B	委員会活動や学年との連携により、環境美化についての啓発と実践を行った。清掃用具の管理や実施上の留意点など生徒に理解させ、実践者としての意識を高める。	A	A
学校関係評価者による意見	特になし				

【図書関係：保護者】

- Q26 「朝の読書」や「図書委員会便り」等で、読書に親しむ意識を高めている。

【図書関係：生徒】

- Q26 「朝の読書」や「図書委員会便り」等で、読書に親しむ意識を高めている。
 A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
図書関係	①読書指導について 保90 生86 職93	A	回答1・2の割合は、保護者[90%]、生徒[86%]、職員[93%]であった。生徒に関しては昨年より11ポイント上昇しており、多くの生徒が朝読書で読書への親しみを感じていることを裏付けている。限られた短い時間だけに、しっかりとした指導を行い、図書関係情報伝達、行事を実施し、更に意識を高められる工夫をしていきたい。	A	A
学校関係評価者による意見	特になし				

【事務関係：保護者】

Q27 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている

【事務関係：生徒】

Q27 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
事務関係	①施設・設備の整備について 保82 生67 職100	B	施設・設備の修繕については学校予算で対応できるものは早期に対応できました。講堂の大規模改修については業者と連絡調整を図り進めてまいりました。3月中旬の完成予定出です。また、グラウンドについては予算の状況を見て可能であれば今年度中に一部（野球，ソフトボール）整備する予定です。道路の拡幅工事は、今年の7月頃まで行われる予定です。今後とも計画的に整備を進めてまいりたいと思いますのでご協力よろしくお願いいたします。	A	A
学校関係評価者による意見	特になし				

次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
①進路の手引きについて	今年度も生徒の評価は、低い水準であり自己評価は「C」としたが、昨年から徐々に上向き傾向ではある。毎年改善を重ね今年度は、手引きの中に「年間進路シラバス」を作成した。教室掲示等、有効活用している状況も見られた。次年度は、進路活動の度に利用を促すなど、よりいっそう働きかけを行っていきたい。
②いじめ問題の取り組みについて	今年度は生徒の評価が7割を越え、評価は徐々に上向き傾向である。生徒観察や生活状況調査等の取り組みが感じられるものになってきたと考える。今後も生徒観察、生徒の情報収集・共有、生活環境調査等、緊張感をもって対応していく必要がある。
③施設・設備の整備について	今年度は講堂の大規模改修、付近道路の拡幅工事、トイレの改修工事等整備が行われているにもかかわらず、生徒の評価は昨年より低い評価であった。生徒にとっては不便な状況が重なってしまったことが下がった要因のひとつになってしまったのではないかと考える。早めに整備に関しては周知し、計画的に進めていくことが大切である。